

報 雜

會 員 動 靜

<p>步兵第七十七聯隊附 陸軍一等軍醫</p> <p>補騎兵第五聯隊附</p> <p>步兵第四十九聯隊附 陸軍二等軍醫</p> <p>補步兵第八十聯隊附</p> <p>騎兵第十聯隊附 陸軍一等軍醫</p> <p>補姫路衛戍病院附</p> <p style="text-align: center;">(七月十八日)</p> <p>任岡山醫科大學助教授</p> <p>敘高等官七等</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學助教授</p> <p>本俸十一級俸下賜</p> <p>職務俸金四百五拾圓下賜</p> <p style="text-align: center;">(七月二十三日)</p> <p>從五位勳六等</p> <p>敘勳五等授瑞寶章</p> <p style="text-align: center;">(七月三十日)</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學助教授</p> <p>職務俸金六百圓下賜</p> <p style="text-align: center;">(七月三十一日)</p> <p>吳海軍病院部員海軍軍醫少佐</p> <p>兼補吳海軍軍需部部員</p> <p>陸軍三等軍醫正六位勳五等</p> <p>任陸軍二等軍醫正</p>	<p>小 竹 豐</p> <p>跡 部 織 朗</p> <p>大 橋 要 人</p> <p>林 香 苗</p> <p>林 香 苗</p> <p>橫 川 定</p> <p>上 代 晴 三</p> <p>栗 栖 幸 穂</p> <p>尾 崎 文 七 郎</p>	<p>陸軍一等軍醫從六位勳六等</p> <p>任陸軍三等軍醫正</p> <p>陸軍二等軍醫從七位</p> <p>陸軍二等軍醫從七位</p> <p>任陸軍一等軍醫</p> <p>陸軍一等軍醫正</p> <p>補宇都宮衛戍病院長</p> <p>步兵第七十七聯隊附 陸軍三等軍醫正</p> <p>補近衛步兵第二聯隊附</p> <p>陸軍二等軍醫正</p> <p>補第二十師團軍醫部部員</p> <p>步兵第二十七聯隊附 陸軍三等軍醫正</p> <p>補岡山衛戍病院附</p> <p>野砲兵第十聯隊附 陸軍二等軍醫</p> <p>補山砲兵第九聯隊附</p> <p>步兵第七十五聯隊附 陸軍一等軍醫</p> <p>補第十師團軍醫部部員</p> <p>步兵第三十七聯隊附 陸軍二等軍醫</p> <p>補陸軍造兵廠名古屋工廠廠員</p> <p>岡山醫科大學教授</p> <p>本俸五級俸下賜</p>	<p>井 上 文 夫</p> <p>西 村 慶 次</p> <p>岸 本 春 桑</p> <p>荻 本 快 吉</p> <p>井 上 文 夫</p> <p>尾 崎 文 七 郎</p> <p>矢 野 義 徳</p> <p>永 山 太 郎</p> <p>高 原 武 一</p> <p>菅 田 讀</p> <p>清 水 多 榮</p>
			(八月十日)
			(八月十四日)

○沖津 亘君 は大正十四年三月全州慈惠醫院を辭し朝鮮京城帝國大學醫學部に於て研究中なりしか今般京釜線大田本町一丁目に於て開業せられたり

○桑原 弼君 は豫て岡山醫科大學に於て研究中なりしか今般同大學を辭し本月一日より大分縣西國東郡高田町に於て開業せられたり

○小林藤次君 は今般東京市外遊谷町竹下に於て開業せられたり

安藤幹太君逝く 君は明治四十年岡山醫學專門學校を卒業し同校病理學教室に於て桂田博士に就き病理學を研究し後廣島縣病院病理部長及び内科醫員を命ぜられ在勤數年同院を辭し廣島市外祇園町に於て開業し居られしか去月下旬急性傳染病に罹り同市内海外科病院に於て療養に手を盡されしも其效なく本月十日遂に遠逝せられたり洵に痛惜に堪へず茲に謹みて弔意を表す

◎學位授與 安武輝一、岡田正矩、熊谷嶽之允の三君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしか本年七月二十三日の教授會を通過し八月十五日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

安 武 輝 一 君

主 論 文

心臓神經作用ノ液體傳導ニ關スル研究

其一、心臓鼓舞神經刺戟ニヨル「カルシウム」ノ心臓内移動ノ證明 (獨文)

(一九二五年獨逸生物學雜誌第八二卷ニテ發表)

其二、迷走神經素ノ研究 (邦文)

(本會雜誌第四〇年第一號ニテ發表)

其三、交感神經素ノ研究 (邦文)

(本會雜誌第四〇年第二號ニテ發表)

參考論文

1. 龜ノ心房緊張ニ及ボス「カルチウム」ノ影響ニ就テ

附. 蛙ノ腸管運動ニ對スル「カルチウム」及ビ「カリウム」ノ影響 (邦文)

(本會雜誌第三九年第一二號ニテ發表)

2. 交感神經作用ト組織細胞ノ滲透性トノ關係ニ就テ (邦文)

(本會雜誌本年九月ニテ發表ノ豫定)

3. 「ビタミン」缺乏症ニ關スル實驗的研究補遺 (邦文)

(本會雜誌本年十月ニテ發表ノ豫定)

4. 岡山地方ニ於ケル消化器内寄生蟲患者ノ統計的觀察 (邦文)

(本會雜誌第四二六號ニテ發表)

岡 田 正 矩 君

主 論 文

毛細血管ノ生理遺補

其一、小動脈竝ニ毛細血管ニ及ボス藥劑ノ作用ニ就テ (英文)

(本會雜誌第四五七號ニテ發表)

其二、「アドレナリン」及ビ「ピツイトリン」ノ腎臟絲絨體毛細血管ニ對スル作用竝ニ其ノ利尿作用ニ就テ（英文）

（本會雜誌第四〇年第三號ニテ發表）

其三、利尿藥竝ニ其他藥劑ノ腎臟絲絨體ニ及ボス作用ニ就テ（英文）

（本會雜誌第四〇年第四號ニテ發表）

參考論文

1. 蛙ノ蹼膜ニ於ケル「メラノフォーレン」ノ神經支配ニ就テ（邦文）

（本會雜誌第四〇年第一號ニテ發表）

2. 蝸牛ニ於ケル「グリコゲン」新陳代謝（邦文）

（本會雜誌第四〇年第七號ニテ發表）

3. 視覚竝ニ聽覺刺激ニ對スル脊髄反射ニ就テ（邦文）

（本會雜誌第四〇年第八號ニテ發表ノ豫定）

4. 所謂「ルーゼ」細胞ノ疑義（邦文）

（本會雜誌第四〇年第四號ニテ發表）

5. 「カフェイン」ノ腎臟血管擴大作用ノ本態ニ就テ（邦文）

（本會雜誌第四〇年第九號ニテ發表ノ豫定）

熊 谷 藏 之 允 君

主 論 文

骨組織再生機轉ニ及ボス電流(直流)ノ影響ニ就テ（獨文）

（本會雜誌第四〇年第二號ニテ發表）

參考論文

1. 血清電氣反應ニ基ク妊娠ノ一新診斷法（獨文）

（本會雜誌第四〇年第一號ニテ發表）

2. 神經「アルコキル」抽出物「エムルゾイド」粒子ノ電氣的研究

特ニ種々ノ「アルカロイド」ガ神經「リポイド」ノ電荷ニ及ボス影響ニ就テ（獨文）

（本會雜誌第四〇年第五號ニテ發表）

3. 脫水法ヲ要セザルニ新透明藥ニ就テ（英文）

（大正十四年四月 ホリヤ. アナトミカ. ヤボニカ 第三卷第二號ニテ發表）

4. 神經系統ノ「インドフェノール. オキシダーゼ」反應知見補遺（獨文）

（本會雜誌第三九年第四號ニテ發表）

5. 實驗的見地ニ基ク神經組織ノ「オキシダーゼ」反應竝ニ其意義ニ就テ（英文）

（昭和三年一月 ジャパン. メディカル. ウォールド 第八卷第一號ニテ發表）

6. 大動脈弓ノ組織學的構造ニ就テ（獨文）

（本會雜誌第四四〇號ニテ發表）

◎**柿沼教授の通信** (7月29日ニューヨーク發) 20日當地に参り汗だらだらになりつつ此地を中心として見物、愈々8月1日には當地を去るべく、どうも總てが器械的で小生には不適の國に候。

◎**同** (8月10日ロンドン發) 當地は只今日本の10月初位の氣候に候其他は此前と大差なく至急伯林へ参るべく候。

◎**清水教授の通信** (7月31日ニューヨーク發) 「アメリカ」の暑い旅を無事すまし紐育につきましたのが25日、毎日柿沼君と共に赤い白い脛の見物には一寸いやになり申し候うるさい自動車をやけつつ毎日野球も日課と相成申候「ペンシルバニアホテル」に4日泊つたが暑いので閉口致し候。

◎**同** (8月10日ロンドン發) 倫敦の町も昔の伯林の様に悪化しつつあると見える。別に特筆すべき出来事もない。只共に無事です。

◎**北山助教授の通信** (8月20日伯林發) 去る16日柿沼教授御來伯、大熊、池上、吉田の諸氏も伯林滞在、伯林は岡山の「コロニー」とも申すべく、異郷に在つても日本食其他事缺くこと之無く候目下「シャリテ、クリニク」見學、先づ本年中は當地に滞在の豫定に候。

◎**宇都宮博幸氏の消息** 同博士は石川縣七尾町の高島病院に勤務中にして今夏皆見教授が訪問されし時、同氏と會談、目下健康にして愉快に診療に従事せられ爲に同病院も大に發展しつつありと云ふ。

◎**岡山同窓會** 本月二十日朝鮮羅南に於て岡山同窓會を開催し石井義章、長田袒村、脇田豊、田村權五郎、松原愛次郎、木村正可、三宅助一の七君出席せられたる旨田中學長へ通信ありたり

◎**科學獎勵費** 文部省に於ける昭和三年度科學獎勵費被補者中本會々員は左の如し

岡 山 醫 科 大 學

教 授 緒 方 益 雄

過敏症抗体並に其分離に関する研究

船員病及熱帯病學獎勵會

所 長 桂 田 富 士 郎 (外二名)

微生物に由來する熱帯病及び亞熱帯病の研究

◎ 岡 山 醫 學 會 通 常 會

同會通常會は本年九月二十日午後四時より岡山醫科大學に於て開會し左の講演ある筈なり

1. 毛嚢々腫、粉瘤並ニ粟粒腫ノ病理補遺

附. 汗腺排泄管ヨリ發生セル角膜嚢腫ニ就テ

皮膚科泌尿器科教室 藤 原 晴 君

2. 微量注射ニヨル沈降素產生

附. (皮膚免疫正常沈降素ト特異沈降素ノ異同)

衛生學教室 遠 藤 正 人 君

3. 煮沸沈降素ノ性状並ニ煮沸沈降素血清ノ生蛋白ニ對スル反應ニ就キテ

衛生學教室 須 之 内 權 三 君

4. 演題未定

細菌學教室 高 橋 昌 造 君